

特集コラム●中越地震にまなぶ

## 「寝耳に水」の悲劇を繰り返さないために

——新潟県中越地震特集に寄せて

鈴木康弘

中越地震における大規模な地すべり災害や、スマトラ西方沖地震による巨大津波に遭遇して、阪神・淡路大震災のときと同じ「心の痛み」が走った。

一般市民には「こんなところでそんな災害が?」という「寝耳に水!」の大災害。でも、地理学関係者にとっては、(具体的に想像していたかどうかはともかくとして)、「起こるべくして起きた大災害」ではなかっただろうか?

ちょうど10年前、「要注意断層」と目された活断層が地震を起こし、真上に位置する神戸や淡路島の街が壊滅的な被害を受けて日本中が呆然となったあのときとまったく同じである。地理

学にかかわる研究者・教育者・行政・マスコミがこの点を重く受け止めなければ、「寝耳に水」の不条理はこれからも繰り返されてしまう。

新潟県中越地震についていえば、3年前に国土地理院から中越地方の「都市圏活断層図」が刊行され、長さ50kmを超える大規模な活断層の存在が示された。いずれは大地震が起きるべき「地震空白域」とまでいわれていたのに、その危険性は住民に周知されなかった。ともすれば「地震は他人事」と思っていたため、心理的にも物理的にも十分な備えはなく、「寝耳に水」であつたがために、大きな驚きと悲しみ

に、日本人観光客が率先して避難したという話はほとんど皆無に近かった。

災害多発国日本として、最も重要な国際貢献ができていない。またこんなことで、来るべき宮城県沖地震や東南海・南海地震を迎え撃てるのだろうか?

地域の災害脆弱性を総合的に評価し、わかりやすく伝え、対策のあり方を考えさせる防災地理教育が、今こそ強く求められているように思う。人口構成も社会・財政構造も今後大きく変化し、従来の、「力づく」の防災戦略では通用しないことは明らかである。お上がトップダウンで防災に責任が持てる時代も完全に終わっている。

地震が起きた場合の被害想定が、近年全国各地で行われているが、それらは往々にして、地域性を無視した一般式からの算定である。震源から発生する地震動をモデル化して、距離減衰と地盤効果を考慮して震度を予測し、住宅戸数と耐震化率などから死者数を求めたり、ときには地盤災害の危険度を

見積もることもある。津波シミュレーションから津波被災者を計算してもいる。しかし、重要なことは、「どの場所の、どの家が危険か」を想定することであるはずだし、「どの道路がどこで崩れて使えなくなるか、ならないか」を具体的に(数値的にではなく、地理的に)予測することではなからうか? もちろんこうした予測は容易ではなく、任意性も高いため、行政の仕事には馴染みにくい。住民レベルで災害時にながら起こるか知っておこうとすることが重要であり、地理学会はその動機づけをしたり、具体的な考え材料を提示したりするような貢献をすべきであると思う。

学校教育における防災教育の充実も不可欠であるが、今のところ体系化されていない。地域性を無視した単なるマニュアル指導に陥らないように監視する必要がある。ハザードマップから災害そのもののダイナミックなイメージを読みとる方法を教え、マップが単

と不安に遭遇した。地元の人には地すべり地帯という脆弱性については、日頃から意識して暮らしていたため、「やつぱり」という諦めの感覚も多少あるかもしれないが、一般国民は、そこで育てられたコシヒカリや錦鯉は知っていても、中越地方が地すべり地帯であることをほとんど知らなかったし、行政の側も、その脆弱性を織り込んだ地震防災対策をほとんど持っていないかった。スマトラ島からアングマン諸島にかけては、「アルプス・ヒマラヤ造山帯」の一部にあたり、その沖合にはサブダクションゾーン(海溝)が横たわる。ここで巨大地震が発生すれば、大津波が起きる。歴史的にも津波は繰り返されてきた。ある地震学者は、「プレートの収束速度がアングマン付近では大きくないため、これほどまでの巨大地震は予測できなかった」といつて反省の弁を述べているが、地理学関係者は防災教育の不備に責任がある。強烈な引き潮は津波以外の何ものでもないの

なる避難路マップではないことを徹底することが重要ではないだろうか。

十分な郷土理解なくして、地域の脆弱性が正しくわかるはずがない。「寝耳に水」の悲劇を繰り返さないためにも、防災地理学を推進したいものである。

すずきやすひろ・名古屋大学大学院環境学研究所 附属地震火山・防災研究センター教授・日本地理学会災害対応委員会委員 1961年愛知県岡崎市生まれ。専門は活断層・変動地形学、防災地理学。主著「活断層地形判読(共著、古今書院)」「活断層大地震に備える」(ちくま新書)。本誌49-9特集「地震のハザードマップ」、48-9特集「ハザードマップ最前線」に、日本地理学会災害対応委員会の提言ほかを執筆。

### ◎最近の自然災害速報記事

新潟・福井豪雨・48巻11号変わる国土、49巻12号特集

台風21号三重県宮川村・50巻1号寄稿

インド洋大津波・50巻3号小特集、50巻4号寄稿(調査速報) 50巻5号寄稿(防災学習)